

華陵高校舞台芸術部 令和二年度上演作品

ほし

はなおか

まい

『この星はブルー』 作・華陵 舞

【受賞歴】

第三九回山口県高等学校演劇大会(最優秀賞・創作脚本賞受賞)
第五八回中国地区高等学校演劇発表(最優秀賞・創作脚本賞受賞)
第六七回全国高等学校演劇大会(優良賞受賞)

【上演人数】

九〜一五人

【あらすじ】

憧れの地球へと移住してきた宇宙人の女子高生・ミチ。彼女とたまたま鉢合わせしてしまった地球人・カガリ先生は、成り行きで宇宙人達に「地球人として振る舞う方法」を教えることになってしまう。一方、カガリ先生のかつての教え子・アムロは、職場での人間関係に悩んでいる。アムロを優しく励ましながら、宇宙人達にレッスンをしていくカガリ先生は、やがて自分の中にある矛盾を突きつけられていく。

【上演許可申請先】

上演を希望する場合は、karyobutage.since1996@gmail.comへ左記を明記のうえ、ご連絡ください。

①上演作品 ②目的(催物名、主催者名、会場等) ③公演日、上演回数 ④対象観客(一般公開・配信の有無) ⑤入場料(有料の場合は金額も) ⑥担当者名および連絡先

※著作権使用料の入金先などは折り返しご連絡いたします。

【登場人物】

カガリ先生
ミチ
ユウマ
エリ
ホシイ先生
アムロ
コロスの皆さん

【0】 どこかのだれかの救難信号】

暗闇の中でモールス信号の音が響いている。SOS。誰かがどこかで助けを求めているようだ。応答はない。繰り返し、繰り返し、SOSがこだましている。

【1】 ミチ地球に降り立つ】

爆音とともに、銀の全身スーツでいかにも宇宙人な風貌のミチが登場。頭には触角らしきものが生えている。

ミチ

ついに、地球に、到着だー！ ヒヤッホーウ！（喜びのあまり、全力で飛び跳ねる。着地した瞬間、衝撃を受けたような表情になる）重ッ！ なにこのやばい重力！ そしてこのめまいがするほどの高い酸素濃度！ これが！ 地球なのかー！（興奮している）故郷の●●星を出発して早三ヶ月。宇宙船が遭難しかけるなんてまさかのトラブルもあつたけど、でもなんとかたどり着いた！ ああ、本当に青くて美しい星。この星が、私の第二の故郷になるんだ。うっわ、テンション上がるわ。（切り替えて）さてと、地球の高校への転入手続きは終わってるはずだから、まずは……（役所のしおりのようなものを取り出す）「地球に到着したら、まずは担当の異星人支援ボランティアと面談をしてください。異星人支援ボランティアは、これから異星人移住者（学生）の皆さんの生活をサポートしてくれる強い味方です」。なるほど。確か私の担当のボランティアは学校の保健室の先生って言ってたな。えーっと面談日は……（腕時計を見て）あ！ 今日じゃん！ やっべー！

ミチ、走って退場。

【2・1 保健室・カガリ先生とホシイ先生】

高校の保健室。白衣を着たホシイ先生がマグカップを持って立っている。腕を上げて、脇の下にマグカップを構え、謎のポーズ。カガリ先生が廊下からドアをノックする。

ホシイ (さっと腕を下して) どうぞー。

カガリ (ドアを開けて) すみません。

ホシイ ああ、カガリ先生。

カガリ ああ、よかった、ホシイ先生まだいらっしやっただ。 (廊下の向こうにいる生徒に) こらあ、廊下走ったら危ないぞお。

生徒(声) またねーカガリーン！

カガリ 気を付けて帰んなさいよー。(ドアを閉めながら) 聞いちゃいないな。

ホシイ どうされました？

カガリ ええと、その、お薬とかがって置いてたりします？

ホシイ お薬、ですか。(薬棚に歩いていく)

カガリ (言いにくそうに) その、胃薬とか……もしあったら……。

ホシイ 胃薬、ですか。(薬棚を開けて中を探している)

カガリ すみません。(言い訳がましく) いつもはカバンに入れてるんですが、今日は違うカバンで来ちゃって……

ホシイ そういう時ありますよね。(薬を手渡す) これでよかったです。

カガリ (薬を受け取り) すみません。

ホシイ お水いりますか？

カガリ いいですか？

ホシイ先生、カガリ先生に椅子をすすめ、流し場へ行く。カガリ先生、椅子に座って窓の方を見る。カーテンが閉め切つてあることに気づく。

カガリ いつも閉めてるんですね。

ホシイ はい？

カガリ (窓の方を見ながら) カーテン。保健室のカーテンだけ、だいたいいつも閉まってるので。

ホシイ ああ、苦手なんですよ。

カガリ え？

ホシイ 紫外線。

カガリ 紫外線。

ホシイ 肌とか、目とか弱くて。すぐ痛くなっちゃうんです、私。

カガリ 大変ですね。

ホシイ ええ。ほんと。地球は紫外線量が多いからまいっちゃいますよ。

カガリ え？

ホシイ 普段からよく飲んでるんですか？ 胃薬。

カガリ な、なんでですか？

ホシイ ほら、「いつもカバンに入れてる」って言ってたから。

カガリ (しまった、という表情で) お恥ずかしいです。

ホシイ 恥ずかしい？

カガリ だって、誰だって仕事してればストレスくらいあるじゃないですか。普通。

ホシイ 普通。

カガリ 耐性身につけないと。

ホシイ (妙に感心しながら) カガリ先生はさすがですねえ。

カガリ え？

ホシイ ああ、いや、ほかの先生たちもよくほめてるので。教頭なんかこの間、「カガリ先生は、常にま

わりをしつかり見て、積極的に動いてくれる。

カガリ いやいや。

ホシイ うちの学校の先生が全員カガリ先生だったらいいのに」って。

カガリ ……話盛ってませんか？

ホシイ あと、ほら、いま休職されてますけど、理科のナス先生も、「私のような地味な同僚に優しくしてくれるのはカガリ先生くらいです。カガリ先生のような人に憧れます」って。

カガリ 買いかぶりですって。

ホシイ 謙遜謙遜。ナス先生、保健室来るたびに、いつもいつてましたよ。

カガリ よく来られていたんですか？

ホシイ ええ、休職される前はよく。あ、それと学年主任のワカクサ先生も先週の飲み会で……

カガリ もう勘弁してくださいよ。

放送(声) 『ホシイ先生、ホシイ先生。職員室までお願いします』

ホシイ (立ち上がって周囲を見て) どうしようかな。

カガリ あ、私ここ見ときましようか。

ホシイ 助かります。すぐ戻りますから。

ホシイ先生、退場。一人きりになったカガリ先生は、机に突っ伏して胃を押さえながら唸り声をあげる。

カガリ ううう……マジでもう勘弁してくれ……。

【2-2 保健室・ミチとの遭遇】

ミチが、周囲を警戒しながら、保健室に入ってくる。

ミチ よし、ここまで誰にも見られずに到着。

カガリ先生、ミチに気づいてびっくり。カガリ先生はミチの異様ないでたちに動揺しているが、ミチ自身はカガリ先生の存在に全く気付いていない。

ミチ これが地球の学校。マンガの通り。ああ、夢のようだ。いいえ、夢じゃないのよ、ミチ。ここが、これからあなたが通う学び舎なのよ。(ひとり喜んでい) えーっと、ここが……(不安になつて、いったん廊下に出て部屋名が書いてある札を確認して) 保健室。うん、保健室。間違いない。

振り返って、カガリ先生とミチの目があう。

ミチ ああ！(カガリ先生に走り寄る)

カガリ わー！(思わず逃げる)

ミチ あなたが「保健室の先生」ね！

カガリ いや、ちがうけど……

ミチ (かぶせて) 保健室の先生って実際には白衣は着てないんだ！

カガリ 国語の先生だからね。

ミチ (さらにかぶせて) マンガとは違う！

カガリ 聞いてない……。

ミチ 私、ミチです。来週からこの学校に通うことになってる。

カガリ ああ、君、転校生？

ミチ はい！ 船の遅延で、遅くなりました。

カガリ 船で来たんだ。今日みたいにいい天気でも船が遅れることあるんだね。

ミチ　なんか隕石ぶつかったみたいで。

カガリ　隕石！？

ミチ　小さいやつですよ。でもさすがにそのまま航行できないから、

カガリ　そりゃそうだろうね。

ミチ　結局三ヶ月もかかってしまつて。

カガリ　三ヶ月？！　ヨットで太平洋横断でもしてきたの！？

ミチ　やだな、何言ってるんですかあ！（カガリ先生の肩をバシバシ叩きながら大笑い）

カガリ　いたたた！　めっちゃテンション高いね、君。

ミチ　いま私酔っぱらつてて！

カガリ　ダメだよ、未成年の飲酒は！

ミチ　いやいや違いますよ。さ・ん・そ！

カガリ　酸素？

ミチ　そう、いま私酸素酔いしてるんです。フワフワ。この酸素濃度まじエグい。先生は平気なんです
か？

カガリ　なにが？

ミチ　だから、ずっとこの空気吸ってて平気なんですか？

カガリ　平気っていうか、普通。

ミチ　まじっすか。

カガリ　とりあえず落ち着こうか、ね。

ミチ、突然その場に横たわる。

カガリ　だ、大丈夫？

ミチ　うーん、やっぱ地球の重力きつい。ほら、私、もともと四足歩行なんで。

カガリ　どういうこと！？

ミチ 直立維持すんのきついんすよ。このまま話していいですか。

カガリ いいよいいよ、よくわかんないけど、体調悪いなら無理しないで。

ミチ 先生、私ここでやっていけますかね。

カガリ え？ なに？

ミチ 私、初めてなんですよ、親元離れて生活するの。

カガリ そうなの？

ミチ 親は仕事あつてむこう離れらんなくて。家はこっちに住んでる親戚んちに下宿させてもらうん

ですけど。やつぱりいざとなると不安になってきた。

カガリ ……大丈夫だよミチさん。先生も君がこの学校で、一日でも早く馴染めるように、全力でサポー

トしていくから。

ミチ 本当ですか。

カガリ たくさんお友達作って、楽しい高校生活にしよう！

ミチ はい！（起き上がる）

カガリ しかしミチさんは面白いなあ。

ミチ え？ そうですか？

カガリ ええ。さつきから、その、宇宙人キャラ？ なかなか奇抜だよね。

ミチ キャラっていうか、宇宙人ですしね。

カガリ え？

ミチ やだな、まるで自分だけ地球人みたいな。先生だって宇宙人でしょ。

カガリ え？

ミチ え？

カガリ ん？

ミチ ん？

間

カガリ あ、その、頭の。

ミチ 触角？

カガリ そう、触角。よくできてるよね。何でできてるの？

ミチ 何って、普通に、たんぱく質ですよ。皮膚と同じなんです。

カガリ ええ？ いまどきはコスプレアイテムもオーガニック素材なの。

ミチ え？

カガリ え？

ミチ ん？

カガリ ん？

間

ミチ コスプレじゃないですよ。宇宙服。

カガリ うちゅ……え？

ミチ 船遅れたせいで着替える暇なくて。

カガリ ちなみにその船はフェリーの的なやつ？

ミチ そんなわけではないでしょ、普通に宇宙船ですよ。

カガリ うちゅ……え？

ミチ え？

ホシイ先生が戻ってくる。

ホシイ すみませんカガリ先生、お待たせしちゃって。(ミチと対面し、停止) あれ、君、もしかしてミチさん？

ミチ え。

ホシイ 聞いたよ、宇宙船に隕石ぶつかって遭難しかけたんだって？ しかも不時着したのが◇◇星なんて、災難だったねえ。あれ？ でも、明日だったよね、確か。面談日。

ミチ え？ 通知文には、今日って。

ホシイ あ、もしかしてカレンダーのタイムゾーン設定間違えてない？（ミチの腕時計を指さす）

ミチ （腕時計を見て）あ！

ホシイ 地球来た初日って、みんなそれ間違えちゃうんだよね。

ミチ そうなんですネ。

ホシイ あ、私、異星人支援ボランティアのホシイです。

ミチ え。

ホシイ どうしたの。

ミチ あなたが、

ホシイ はい？

ミチ 保健室の先生。

ホシイ はい。保健室の先生です。

ミチ 白衣ですね。

ホシイ 白衣ですよ。保健室の先生なんです。

ミチ じゃあ、あの人は。（カガリ先生を振り返る）

ホシイ ああ、あの人は国語のカガリ先せ……あ！ 先生、あ！ ちよ、あ！ もしかして、

ミチ やらかしましたね。

ホシイ やらかしましたね。

カガリ えっと、ホシイ先生。

ホシイ （張り付く笑顔）はい、なんででしょう。

カガリ 私ちよっと飲み込めていないんですが……

ホシイ そうですね。飲み込むより、とりあえず吐き出して忘れて頂くほうが我々としては助かるんです

が。正直なところ。はい。

カガリ えーっと、彼女は、

ホシイ はい、彼女は、(緊張)

カガリ 転校生。

ホシイ ええ。(緩和)

カガリ 宇宙人、

ホシイ おおっと？(緊張)

カガリ のような恰好をして、

ホシイ おお……(緩和)

カガリ 宇宙船に乗ってやってきた、

ホシイ おおっとお？(緊張)

カガリ という自分で決めた設定に忠実な、

ホシイ おお……(緩和)

カガリ 転校生。

ホシイ そうです。

カガリ 普通の。

ホシイ そうです、普通の。はい。

カガリ ですよねえ！

ホシイ そうですそうです。安心してください、ちゃんと飲み込めていますよ、カガリ先生。

カガリ よかった。いやね、私がたまたま保健室にいたもんだから、この子、私のことをホシイ先生と勘

違いしちゃったみたいで。

ホシイ それは早とちりでしたね。

カガリ しかもなんか自分もホシイ先生も宇宙人、みたいな話だったので、ずいぶん不思議な子だなあつ

て。

ホシイ ええ、ええ、はい、はい。

カガリ でもホシイ先生まで似たようなこと言いだすから、あれ、これもしかして、なんて、
ホシイ いやいや、なんですか、もしかしてって。
カガリ もしかして、二人とも本当に宇宙人だったりして、なんて……。

間

カガリ いやいや、まさかですよねえ！

ホシイ まさかですよ、当たり前じゃないですか、ねえ、ミチさん。

ミチ (激しく頷き、触角が揺れる)

カガリ とにかく、ここは学校だからね、こういう派手な恰好とか被り物はつけてきちやだめだよ。(ミチの触角をつかむ)

ミチ (引っ張られて) いたたたた！

カガリ先生、ミチの触角を放す。手で触れた触角が、完全に「生き物の体の一部」の感触だったので、カガリ先生、驚愕。三人、フリーズ。

ホシイ えーっと。

カガリ先生、卒倒。

ミチ あ、倒れた。

ホシイ やべ。

二人が覗き込むとカガリ先生が勢いよく目を覚ます。無言でじりじりと、警戒しあう三人。

ホシイ とにかく、いったん落ち着きましようか。コーヒードも飲みますか。

カガリ 結構です！ さっき薬飲んだばかりなんで！

ホシイ じゃあ麦茶でも。ミチさんも麦茶でいい？

ミチ はい！

ホシイ先生、麦茶をコップに注ぐ。

ホシイ どうぞ。(麦茶の入ったコップを二人に差し出す)

三人、それぞれ自分の飲物を一口飲んで、一息つく。

ホシイ と、いうわけなんですが。

カガリ にわかには信じられません。

ホシイ 信じられないなら信じられないで忘れてもらっても……。

カガリ そういうわけにも。

ホシイ そうですね。

間

カガリ これは、あれなんですか、地球侵略的な。

ホシイ やだな、映画の見過ぎですよ、カガリ先生。私たちはいたって平和的ですよ。理由は様々ですが、

みんな地球へあこがれて移住してくるんです。

カガリ はあ。

ミチ (うんうんと頷きながら) 生まれながらこの豊かで美しい星で暮らしているなんて、地球人は恵まれていていると思います。

カガリ 豊かで美しい。
ホシイ 実に羨ましい。

ミチ (うんうんと頷きながら) 私は大好きなマンガやアニメに囲まれて生活していきたいって思っ
て地球へやって来ました。

ホシイ おお、いまどき。

カガリ ホシイ先生は？

ホシイ 私は、生まれた星が氷河期で。

カガリ 氷河期。

ミチ 大変ですね。

カガリ 隕石か何かの影響ですか？

ホシイ いえ。不景気の影響で、大企業の倒産が相次いで。新卒には厳しい時代で。

カガリ あ、そっちの氷河期。

ホシイ 無事、地球で定職に就けて、ありがたい限りです。

カガリ なるほど。

ホシイ そんなわけで私たちが望んでいるのは、あくまで地球で平穏に生きていくことです。

カガリ つまり？

ミチ 地球人にばれないように、地球人として生活すること。

カガリ ばれてますけど。

ホシイ そうですね。

ミチ スミマセン。

【2-3 保健室・エリとユウマ登場】

エリとユウマが入ってくる

ユウマ ホシイ先生、います〜？

エリとユウマは、ミチを見て停止。ホシイ先生とカガリ先生もそれを見て停止。

全員 あ。

カガリ先生、ミチとエリ・ユウマを交互に見て、「しまった！」と焦って、とっさにミチを隠す。

エリ 明らかにいまなんか隠しましたよね先生。

カガリ (かなり無理のある感じで) かかか隠してなんかないよ、へへ変なこと言わないでよ。

ユウマ いやいやいや。(覗き込む)

カガリ いやいやいや。(隠す)

ユウマ ちよ、ちよ、ちよ。(覗き込む)

カガリ ちよ、ちよ、ちよ。(隠す)

ミチ、カガリ先生の後ろから顔を出す。

ミチ あ！

エリ あ！

カガリ わー！ だめだめだめだめ！(隠そうとするが隠しきれず) あーあーあーあ、これは、その…

…(必死の言い訳)

エリ ミツちゃん！

ミチ エリちゃん！

カガリ え？

ミ・エ 久しぶり〜。

親しげな二人の様子を見て、拍子抜けしているカガリ先生。

ミチ いとこのエリです。

カガリ え……じゃあ君も宇宙人？

エリ え？（ちよつと戸惑い気味に）あ、はい。

カガリ （驚愕）

ユウマ （遠慮がちに）あ、一応俺もです。

カガリ （驚愕）……なんだよお……心配して損したあ……（緊張が切れ、安堵）

ホシイ カガリ先生、あなた本当にいい人ですね。（感心している）

エリ ユウマ、この子、ミチ。ミツちゃん、こっちはユウマ。

ミ・ユ よろしく〜。

なんだか和気あいあいとした雰囲気。

カガリ つてか、どんだけ宇宙人いるんだ、うちの学校！

ホシイ これで全部ですよ。コンプです。

ミチ おめでどうございます。

カガリ なにが？！

エリ （ホシイ先生に）よかったですか？

ホシイ カガリ先生見ての通り完全にいい人だから大丈夫。

カガリ どういう意味ですか。

ホシイ せっかくみんな揃っちゃったし、今日もうレッスンしちやおうか？

カガリ レッスン？

エリ 地球の生活に慣れるための訓練です。

ホシイ 週に一回、この子達集めてやってるんですよ。

カガリ そんなことを。

ホシイ せっかくだからアドバイスしてもらえませんか。

カガリ アドバイス？

ホシイ ほら、本物の地球人だから。

カガリ そういわれても。

ミチ 私が地球に馴染めるよう全力でサポートしてくれるって約束してくれたんですよ、カガリ先生。

カガリ あ。

エリ へー。

ユウマ やさしい。

ホシイ あなた、とことんいい人ですね、カガリ先生。(あきれるほど感心している)

【2・4 保健室・レッスン①ミチの高校デビュー】

ホシイ ミチさんは初めてなので、今日は基本のレッスンからやっていきましょう。

「わーい」「いいと思いまーす」などと口々に、生徒たちは和気あいあいとした雰囲気。

ホシイ ミチさん、ここに立って？

ミチ はい！(嬉しそうに舞台中央へ行き、奇妙な立ち姿で立ってみせる)

ホシイ カガリ先生。違和感のある所を指摘してください。

カガリ (ミチの触角を凝視し、指をさしかけながら) 触か……

ホシイ 触角以外で。

カガリ あ、はい、すいません(思わず謝る)。……まず、立ち方でしょうか。
ミチ え？ 変？

一同 うんうんと頷く。ホシイ先生、ミチの立ち姿を的確に修正してく。

一同 おお……(感心)

ミチ (かなり無理をしているらしく、顔をこわばらせながら) どう？

エリ いいかんじよ、ミツちゃん！

ミチ (緊張の糸が途切れたらしく、床に寝そべる) はあああきつう〜。

カガリ あと、そうやって急に寝そべるのも、正直びっくりします。

ミチ ええ！(びっくり)

ホシイ そう。実は地球人は所かまわず寝そべったりはしません。

ミチ (驚愕) これだけ重力を受けてるのにずっと立ってるなんて、無理無理、無理ゲーだよ！(ゴロ

ゴロと転がっていく)

ミチ、エリに転がされながら戻って来る。

ホシイ 本来四足歩行の●●星人にはきついでしょうが、頑張ってください。

エリとユウマに励まされ、生まれたての小鹿のように震えながら立ち上がるミチ。なんだか青春のページ感のある小芝居。

ホシイ 次は、クラスでの自己紹介を練習しましょう。

ミチ それはしっかり予習してきました！

カガリ そんなこともやるんですか？

ホシイ ええ。初日はみんなやらかしがちなので。

ミチ (張り切って)「●●星……じゃなかった。○○からきました。ミチです。マンガやアニメが好きです。あ！(誰かを見つけて) あんたは今朝の……！ べ、べつにあんたのことなんて好きじゃないんだからねっ！」

カガリ 今誰を見つけたの？

ミチ 登校中に曲がり角でぶつかった男子です。

カガリ ん？

ミチ 偶然再会して、反発しあいながらも、最終的には恋に落ちます。

カガリ 参考文献に偏りがあり過ぎる。

ホシイ ありがちなやらかしパターンです。

カガリ ありがちなんだ。

ユウマ 張り切ってたのに全然じゃん。

ミチ しよぼーん。

エリ ユウマだってやらかしてたじゃん。

ユウマ は？ 何のこと……

エリ 「我が名はユウマ、だがしかしこれは神から授かった仮の名前。本当の名前？ 貴様には関係ないだろう」

ミチ 転校生つぼい！

ユウマ やめてえ！(恥ずかしがる)

カガリ みんなマンガの世界を妄信し過ぎだよ……。

ホシイ 自己紹介は基本的に「名前」と「よろしくお願いします」だけでOKです。

ミチ 自己PR的なのは？

ホシイ 必要ありません。「マンガやアニメが好き」などと不用意に発言すれば、「あいつはオタク」といじめられるかもしれないので危険です。

カガリ それはさすがに極端じゃ……。

ミチ なるほど。(元氣いっぱい)「ミチです！ よろしくお願いしまーす！」

ホシイ ハイ、50点。

ミチ えー！

ホシイ 堂々とし過ぎていると「あいつ調子乗ってる」と思われ、危険です。

ミチ 地球には危険がいっぱいだ。

カガリ 考え過ぎじゃ……。

ホシイ ハイ、顎は引いて、気持ち上目遣いで、ハイ、少しまばたき多めで、ハイOK。で、声の

大きさは教室の隅っこにギリギリ聞こえるくらいで。

ミチ (少し緊張気味に)「ミチです。よろしくお願いします。」

ユウマ 素晴らしい。

エリ 完璧ね。

ホシイ 自己紹介ではまず、フラットな印象をキープしつつ、教室内の勢力分布図を把握します。

ミチ 勢力分布図。

ホシイ エリさん。

エリ 地球人は、ボス、中間、地味の主に3つのグループに分かれています。

ホシイ その通り。では次にその見分け方を教えます。(手を鳴らす)

コロス(ボス)、コロス(地味)、コロス(中間)が登場。

カガリ (コロスを見て驚いて)誰?!

エリ (カガリ先生に)コロスです。

カガリ (エリに)コロスってなに。

ホシイ 自己紹介後の反応の違いから、グループを見分けます。

ミチ (ホシイ先生に促されて)「ミチです、よろしくお願いします」

コロス（ボス）は大きな声で「しつもんしつもん！」と手をあげ、コロス（地味）は無反応、コロス（中間）はヒソヒソ話をしてる動作でフリーズ。

ホシイ はい、この、大きな声で話しかけてくるのがボスグループ。クラス内で最も強いグループです。

教師になれなれしいあだ名をつける習性があります。そして、これが地味グループ。転校生にもクラス全体にもあまり興味がありません。スカート丈が長く、ほとんどが猫背でメガネです。

カガリ すごい偏見！

ホシイ そして、このヒソヒソ話をしてるのが中間グループ。地球人の約八割はこのグループに属しています。単独で行動することはまずなく、常に誰かとコンタクトを取ろうとするのが特徴です。なぜか一人でトイレに行けません。

ミチ なるほど。

ホシイ ミチさんにはこれからこの中間グループと仲良くなってもらいます。

ミチ なんです？

ユウマ ボスグループは、内部の力関係が変わりやすいし、地味グループはいじめの標的になりやすいから危険。

エリ その点、中間グループなら他のグループとも適度な距離で関係を築けるので、一番安全。

ミチ なるほど。

ホシイ じゃあ、やってみましょう。仲良くなりたい時、地球人は一緒に食事をとります。（ミチにお弁当箱を手渡して）さあ、クラスメイトを食事に誘ってください。

ミチ どうすれば？

カガリ 普通に声かけたらいいんじゃないかな。「お弁当、私も一緒に食べていい？」とか。

ミチ、言われたとおり声をかけ、昼食と一緒に食べる了承をもらう。コロス（中間）が袖に向かって声をかけて、コロス（中間2）がお弁当箱を持って登場。

エリ うまくいった！

ホシイ 素晴らしい。上々の滑り出しです。そのまま仲良くなれるよう会話してみましょう。

コロスが「ミチちゃんっておうちどの辺？」「ミチちゃんって休みの日とか何してるの？」などと尋ねる。意気揚々と聞かれた以上に自分のことを一方的に話すミチ。コロスたちはドン引きしてフリーズ。

ホシイ ダメですね。

ミチ えー。

ホシイ 自己主張が強いと、地球人は警戒心を抱きます。

ミチ じゃあどうすれば？

ホシイ カガリ先生。模範解答をお願いします。

カガリ そういわれても、別に私、地球人代表じゃないんですけど……。

ホシイ まあそういわず。

一同、期待のまなざしでカガリ先生を見ている。ホシイ先生とミチに促されて、ミチの立ち位置に立つカガリ先生。コロスが再び「休みの日とか何してるの？」と尋ねる。

カガリ (探り探り)「マンガ読んだりかな。みんなは？」

コ(2) 「なにしてるかな」

コ(中) 「カラオケ行ったりとか？」

カガリ 「へえ〜！ いつも何歌うの？」

コ(中) 「△△(アーティスト名)とか□□(アーティスト名)とかよく歌うよ」

カガリ 「そうなんだ！ 私も□□好きなんだよね〜」

コ(2) 「私も好き〜」

コ(中) 「いいよね□□」

コ(2) 「うんうん」

カガリ 「何の曲が好き？」

コ(2) 「▲▲(曲名)！」

カガリ 「わかる」

コ(中) 「じゃあ今度一緒にカラオケ行こうよ」

コ(2) 「いいねえ」

カガリ 「じゃあLINE交換しよ」

三人 「しようしよう！」

和気あいあいとした雰囲気でクロスたちフリーズ。

カガリ こんな感じでいいでしょうか……？

一同、思わず拍手。

ユウマ すげえ！

エリ 一瞬で打ち解けてる！

ホシイ いやあ、先生がこの学校へ赴任してこられた日を思い出しますね。

カガリ え？

ホシイ (生徒たちに) カガリ先生は、今のように一瞬で先生方と打ち解けていたんですよ。

エリ え、やば。

ユウマ まじか。

ミチ やばいやばい。

ホシイ 私、正直感動してしまいました。

ミチ どうやったらそんな風にできるんですか？

ホシイ 解説してもらえますか？

カガリ 会話は、自分が聞き手に回る方が円滑にいくことが多いです。なので質問されたら相手にも同じ質問を返してみるといいと思います。

ミチ なるほど。

カガリ 相手の好きなものは話題が広げやすいのと、あとは、相槌かな。相槌は興味持って聞いているよっというメッセージなので。

ユウマ 俺、相槌打ってるのに、よく「聞いている？」って言われるんですけど。

ホシイ やってみて？

コ(中) 「カラオケ行ったりとか？」

ユウマ 「へっ！」

コ(中) 「△△よく歌う〜」

ユウマ 「へっ！」

コ(2) 「▲▲が好き！」

ユウマ 「へっ！」

ホシイ これは、ワンパタですね。

カガリ だいぶ、ワンパタですね。

ホシイ ワンパターンな相槌は「聞き飽きた」「つまらない」という逆のメッセージになってしまいます。

カガリ 何パターンか持つとくといいですね。(きよんとしているユウマに対して)「へっ」「そうなんだ」「確かに」「わかる」とかね。

コ(中) 「カラオケ行ったりとか？」

ユウマ 「へっ！」

コ(中) 「△△よく歌う〜」

ユウマ 「そうなんだ！」

コ(2) 「▲▲が好き！」

ユウマ 「わかる〜！」

三人 おおお〜！（すごーい）

ホシイ さすがですね、カガリ先生が協力してくださって本当に助かります。

カガリ いえ、私は、何も。

ホシイ 地球人的謙遜も素晴らしい。まさに地球人の鑑のような人ですね。

カガリ それは褒められてるんでしょうか。

ホシイ もちろんです。

コ(2) 「はぁ」（話を聞いてほしそうにため息）

ミチ （気づかない）

コ(2) （さらに大きく）「はぁぁ」（ミチが気づかないので）「機嫌ななめ」

ユウマ なんかも機嫌そう。

エリ ほんとだ。

ミチ なにかしたほうがいいんですか？

カガリ 「どうかしたの？」って聞いてみたら。

ミチ 「どうかしたの？」

コ(2) 「実は、昨日妹とケンカしちゃって……」

三人 おお……。 （正解だ）

ホシイ 人前での大きなため息は、「悩みを聞いてほしい」という合図です。すかさず「何かあったの？」

と尋ねるのがマナーです。

ミチ 聞いてほしいなら自分から言えばいいのに。

エリ 回りくどい。

ホシイ それが地球人の奥ゆかしさというものです。

コ(2) 「それで、妹が『お姉ちゃん最近太ったよね』って」

ミチ （熱心に相槌）「わかる〜」

コ(2) 同 「は？」

カガリ わかつちやダメ！

ミチ え？ でも相槌……

カガリ こういうときは「そんなことない」って否定してあげなきゃ。

ホシイ 地球人の自虐は相手に否定してもらうことが前提です。即座に否定しましょう。「私ブスだもん」

という女子には「そんなことないよ、可愛いって〜」とか、「俺ももう若くないから」というお

じさんには「何言ってるんですか、まだまだお若いじゃないですか」とか返します。

ユウマ むず！

エリ めんどくさ。

ホシイ 奥ゆかしさです。

コ(2) 「それで妹が、『お姉ちゃん最近太ったよね』って」

ミチ (促されて)「えー、全然太ってないよ〜？」(コロスの反応をうかがっている)

コ(2) 「本当？」(こ機嫌)

三人 おおおー！(うまくいった)

ユウマ 先生、次、俺も教えてほしいんですけど。

エリ あ、私も私も！

ユウマ 俺は、クラスメイトとのやり取りで……

エリ クラスメイトっていうか、またあの子でしょ。

ミチ あの子？

エリ ユウマが狙ってる子。

ミチ 恋バナだ！

ホシイ 青春ですねえ。

ミチ 地球の恋愛マンガ極めてる私が、相談に乗ってあげるよ！

ホシイ とりあえず順番にレッスンしていきましようか。

ミチ 女子高生は曲がり角でぶつかって、壁ドンして顎クイしたらOKだよ。

カガリ また参考文献が偏ってる。

ユウマ 壁クイ、顎ドン？
カガリ 顎ドンしちやだめ、それただの攻撃だから。

生徒たちがわいわい騒ぎながらカオスな状態に。

カガリ 先生、なんか收拾つかない感じになってませんか？
ホシイ 大丈夫でしょう。じゃあレッスン進めますよ。

音楽が大きくなり声をかき消していく。無声でレッスンが進んでいき、やがて溶暗。

【3 帰り道・新社会人アムロの憂鬱】

夜の帰り道。とぼとぼと歩くカガリ先生。

カガリ ああ……疲れた……いろいろなことがあり過ぎて……家帰って寝て起きたら全部なかったことになってないかな……。

リクルートスーツを着たアムロが歩いてくる。カガリ先生もアムロもうつむいたまま通り過ぎ、すれ違ったあとで、ふと、カガリ先生が気づいて声をかける。

カガリ アムロさん？

アムロ え？（急に表情が明るくなり）カガリ先生！

カガリ 久しぶり〜！

アムロ なんでこんなところに？

カガリ 去年ハナオカ高校に転勤になったんだ。アムロさんは？

アムロ 私も、四月からこの近くの会社で働いてて。

カガリ そうなんだ！ 元氣だった？

アムロ (表情が曇り始める) ……あー……まあ。

カガリ 仕事どう？ 楽しい？

アムロ (苦笑いで首をひねる)

カガリ どんな仕事してるの？

アムロ 輸入食品の、管理業務を。

カガリ へえ！ (感慨深そうに) アムロさんももう立派な社会人なんだねえ。

アムロ いや、全然、立派じゃないし…

カガリ 何言ってるの、しっかり働いてるんですよ。

アムロ 全然、本当に、私… (泣き始める)

カガリ (驚いて) どうしたの、アムロさん！ 大丈夫！？

泣きだしたアムロを近くのベンチまで連れていき、座らせる。カバンからポケットティッシュを取り出し、アムロに差し出す。アムロはどんどんティッシュを使って涙や鼻水を押さえる。心配そうに見つめるカガリ先生。

カガリ (ゆっくりと、様子をうかがいながら) なんかあったの？

アムロ (呼吸を整えようとすがどうしても上ずってしまう) 職場で、馴染めなくて。

カガリ うん。

アムロ 「言われたことがなんでできないんだ」とか、「もっと周りをちゃんと見ろ」とか、今日も、主任に、すごく怒られて。

カガリ うん。

アムロ 休憩室で、同期と先輩が話してて、「あいつ空気読めない」とか、「常識なさすぎ」とか、私の悪

口言ってるの聞こえてきて……(ティッシュをどんどん使いながら)すみません。
カガリ アムロさんは一生懸命頑張ってるんでしょう？ それをわかってくれない人が言ってくることで、気にしなくていいんだよ。

アムロ (無言)

カガリ (急に立ち上がり)アムロさん。深呼吸しよう。

アムロ え？

カガリ 深呼吸。ほら。

カガリ先生とアムロ、深呼吸をする。アムロも少し落ち着いてくる。

カガリ 星……(意味ありげに指さす)

二人はそろって空を見上げる。

カガリ ……は、見えないね。

アムロ はい。今日、曇りなので。

カガリ ……だよね。

見つめあう二人。笑いを堪えきれず、二人とも吹き出す。

カガリ (ひとしきり笑ってから)覚えてる？ 二年生のとき文化祭で作ったプラネタリウム。アムロさんが設計図描いてくれて、みんなで放課後残って作ってさ。楽しかったよね。

アムロ はい。

カガリ 先生あの時の試作品のプラネタリウム、今も家で大事に飾ってるんだ。

アムロ そうなんですか？

カガリ うん。時々スイッチ入れて眺めてる。あんなの独学で作れちゃうんだから、アムロさんはすごいよ。最近はやってないの？

アムロ え？

カガリ 手作りプラネタリウム。

アムロ (首を横に振りながら) 役に立たないから。

カガリ え？

アムロ そんなの作れたって、社会に出たら何の役にも立たないから。

カガリ そんなことないよ。

アムロ そんなことあります。そうなんです。(また声が震えている)

カガリ (ちよっとおどけて) もお、そんなさびしいこと言うなよお。(アムロをのぞき込みながら優しく) アムロさんにはいいところがいっぱいあるんだから。先生はそのことよく知ってるんだから。無理しないでいいんだよ。

アムロ ありがとうございます。もう少し、がんばってみます。

アムロ、一礼して退場。心配そうに、アムロの背中を見つめるカガリ先生。

【4-1 保健室・触角取りました】

保健室でホシイ先生とカガリ先生が会話している。ベッドではミチが頭から布団をかぶって隠れている。

カガリ それで私、「君にはいいところがいっぱいある、無理しなくていい」とか言っちゃったんですけど、なんかもつとまじな言葉かけられなかったのかとか、いろいろ考えちゃって。ホシイ なるほど。

カガリ 教師として、なんか力になれる方法ないですかね。

ホシイ でもその子卒業して、もう就職してるんですよ？

カガリ はい。

ホシイ いいんじゃないですか？ ほっといて。

カガリ そんな冷たい。

ホシイ 教え子とはいえいつまでも子どもじゃないんですから。

カガリ でも……。

ホシイ カガリ先生はとことん優しいなあ。

カガリ 茶化さないでくださいよ。

ホシイ 茶化してませんよ。事実です。(腕を上げ、マグカップを脇の下に構える)

カガリ (ホシイ先生の謎のポーズを見ながら) なにしてるんですか？

ホシイ (無視して) あ、そういえば聞きました？

カガリ なにをですか？

ホシイ 新しい先生来られるそうですよ。来月から。

カガリ この時期にですか？

ホシイ 休職中だったナス先生の退職が決まったらしくて。

カガリ へえ……。 (胃が痛い)

エリとユウマが入ってくる。

エリ ホシイ先生！ あ、カガリ先生も。聞いてくださいよ。

ユウマ 俺、明日、彼女とデートすることになりました！

ホシイ おお、すばらしい。

カガリ それはよかった。

エリ (見回して) あれ？ ミッチちゃんまだです？

ホシイ ああ、もうそこにいるよ。(ベッドを指さす)
カガリ え！(驚く)

ベッドからおもむろに起き上がるミチ。触角がなくなって、頭には痛々しく包帯がぐるぐるにまかれてる。

ミチ (元気なく) どーもー。

ユウマ テンション低！

カガリ ミチさん、その頭……。 (頭を指さす)

ミチ 今日手術して。

カガリ 手術？

ミチ 触角切除手術。

間

カガリ えええええー！

ミチ 大きい声出さないください、傷に響くう……。

カガリ ああ、ごめん。え？ でも、え？ 切除？ なんで？

ミチ (質問の意図がわからない) ……メスで？

カガリ そうじゃなくて。どうして触角を切除したの？

ミチ どうして……地球人に触角ないじゃないですか。

カガリ は？

ミチ 触角あつたら地球人に見えないじゃないですか。だから取りました。

カガリ だから取りましたって……

エリ そんなに驚くこと？

カガリ 驚くよ！ だって、体の一部を取っちゃうなんて。

ユウマ べつに普通ですよ。

エリ 私も地球来てすぐ取りましたよ。

ユウマ 俺も尻尾取った。

カガリ ええ……！（驚きを隠せない）

ホシイ 地球に来た異星人はみんな何かしらの形成手術を受けていますよ。

カガリ ホシイ先生も？

ホシイ 私は鼻を。

カガリ 鼻？

ホシイ この鼻は手術で作ったフェイクです。私の嗅覚器官は本当は脇の下にあるので。（持っていたマ

グカップを脇の下に構えてみせる）

カガリ ああッ！

ミチ 響くう……！（エリの膝に頭をのせる）

カガリ ああ、ごめん。

エリ （ミチに）しばらくは痛いけど、大丈夫。

ユウマ （ミチに）すぐ慣れる。

カガリ （あっけらかんとしてる異星人たちに、なかなか言葉が出てこない）いくらなんでも、そんな簡

単に体の一部を切り取ってしまうなんて……

ホシイ 別にショック受けなくても。

カガリ 受けますよ、そりゃ。

ホシイ 地球人だって、一緒じゃないですか。

カガリ はい？

ホシイ 指の本数が多いだとか、唇が裂けているとか。周囲と調和しない異質な外見は、手術して補正す

る。そういうものでしょう。

カガリ そういうのは見た目じゃなくてほかの機能に影響が出ないために……

ホシイ そうですかね。見た目の問題も大きいんじゃないですか？ 外見が周囲と異なるということは、それだけで生きづらいですからね。

カガリ でも……

ホシイ 重く考えなくていいんですよ。ちよつといじるだけで、みんなと同じになれる。それならそうしたほうが楽でしょう。

カガリ先生は、もやもやしているが、ホシイ先生は一向に気にしていない様子。大人たちが話している間に、生徒三人はケータイで動画を見ながら、なにやら盛り上がっている。

ユウマ な？ やばいだろ。

ミチ ウケる。

ホシイ なにがやばいの？

エリ ユウマがアップした動画がバズってるんですよ。

ホシイ 何の動画？

ユウマ 前回のレッスン中の動画です。

間

カガリ え！ そんなの上げてるの！ てか、いつ撮ってたの動画なんて。

エリ いつも撮ってますよ、普通に。(ユウマに) ねえ。

ユウマ (うなずいて) 家で復習してるんで。

カガリ 大丈夫なんですか先生。

ホシイ これがSNS世代ってやつですよ先生。

カガリ 冷静！

ミチ すごいですよ。カガリ先生の模範解答。ダントツの再生数。

カガリ え？

ミチ ほら。(携帯の画面を見せる)

カガリ先生とホシイ先生、携帯の画面をのぞき込む。

カ・ホ (再生回数桁を数える) いちじゅうひゃくせんまん……

カガリ先生、蒼白。

ホシイ わお。

ミチ ね？

カガリ (ヒステリックに) 今すぐ削除して！

ユウマ えー、何ですか。

カガリ こんなことして、身バレしたらどうするの！

ユウマ 大丈夫！ 編集で顔も音声もいじりますから。

カガリ そういう問題じゃなくて！ 怖すぎるわSNS世代。宇宙人ってことがばれちゃってもいいの？！

エリ こんなの見たくらいじゃ、誰も気づきませんって。

ユウマ そうそう。

【4-2 保健室・レッスン②ユウマのデート】

ホシイ さて、じゃあそろそろレッスン始めましょうか。

カガリ じゃあ、私はここで……(出ていこうとする)

エリとユウマは、出ていこうとするカガリ先生を拘束する。

エリ 何普通に帰ろうとしてるんですか。

カガリ いや、私は無関係……

ユウマ 俺たちを全力でサポートしてくれるって約束したじゃないですか。

カガリ 私はただ、ミチさんがこの学校に早く慣れるようになって言っただけで……

エリ (健気な感じで) そんなこと言わないで先生。

ユウマ (とても健気な感じで) 先生だけが頼りなんです。

ミチ (さらに健気な感じで) 私たちには先生の力が必要なんです。

カガリ (健気な生徒たちの瞳に耐えきれない様子) く……教師のツボを押さえてる……。

ホシイ 私が仕込みました。

カガリ そんな気はしていません。

ホシイ ともかく、協力してあげてくださいよ先生。ほら、乗り掛かった舟、ということだ。

カガリ そういわれても……

生徒三人はいたいけな瞳でカガリ先生を見つめる。

カガリ (生徒の視線に勝てず) わかりましたよ、付き合います。

三人 やったー！

ユウマ じゃあ、今日は俺から。

ミチ デートの予行練習？

ユウマ (頷く)

ホシイ コロスさん、お願いします。

クロス(マドンナ)が登場。

ホシイ 待ち合わせに、彼女が十五分遅れてやって来ました。ハイどうぞ。

コ(マ) 「ごめーん、待った？」

ユウマ 「待った。十五分」

コ(マ) 「あ、ごめん」(気まずい雰囲気)

ホシイ だめだめ。ここは「僕も今来たところだよ」。

ユウマ でも実際十五分……

ホシイ これは「あなたの遅刻を許します」という意味です。デートを円滑に進めるため、待たされた十五分は記憶から抹消してください。

ユウマ 「僕も今来たところだよ」

コ(マ) 「ならよかった。実は妹が朝から……(だらだらととりとめのない話をする)」

エリ ユウマ、相槌。

ユウマ あ、そうか。(「へー」「そうなんだ」「確かに」「わかる」を使いまわし、いい感じに相槌を打つ)

ミチ いい感じ。(親指を立てる)

ユウマ (親指を立てる)

コ(マ) 「ていうか、その人、アニメオタクなの」

ユウマ 「そうなんだ」

コ(マ) 「ほら、■■■(女兒向けアニメのタイトル)ってあるじゃん、ちっちゃい女の子が見るアニメ。いい年のおじさんがそのTシャツ着てて、キモくない？」

ユウマ ■■■は女兒向けアニメと思われてるけど、本当は大人も楽しめるストーリー。性が魅力なんだよ。だから大人のファンがいてもおかしくないよ。ちなみに……(熱く語り始める)

ホシイ おおおーい。

ユウマ ハッ！(我に返る)

ホシイ 急にどうしたのユウマ君。

ミチ さつきまでいい感じだったのに。

エリ ユウマ、■ファンだから。

カガリ そうなの？

ユウマ 彼女が■を誤解しているので、思わず……。

ホシイ 実に危険です。彼女がキモイと言っている以上、それを好きだとばれたら一巻の終わりです。

ミチ どうなるんですか？

ホシイ 彼女と仲良くなるどころか、明日から学校で「アニメオタク」「ロリコン」「キモイ」などとひどい迫害を受けることになります。

ユウマ 本当に素晴らしいアニメなんです。

ホシイ (首を横に振りながら) つらいでしょうが、耐えてください。

ユウマ (断腸の思いで) はい。

コ(マ) 「いい年のおじさんがそのTシャツ着てて、キモくない？」

ユウマ (心で涙を流しながら) 「キモいね〜」

カガリ いいんじゃないですか？

ホシイ はい？

カガリ 自分が好きなものは堂々と好きって言って。他人の目なんて気にしないでいいと思います。

ユウマ え、いいんですか？

ホシイ いやいや。嘘教えちゃダメですよ、先生。

カガリ 嘘？

ホシイ 他人に理解されない趣味が、迫害を受けるきっかけになる。実際よくあることじゃありませんか。

カガリ それは他者を理解しようとしないうる相手が悪いだけで……。

ホシイ 誰が悪いとかはどうでもいいんですよ。ここで必要なのは、自分の身を守り、平穏に暮らすことです。ユウマ君のその趣味は、死んでも隠し通してください。

カガリ 死んでも？！

ユウマ はい！ 生きるために、死んでも隠し通します！

カガリ なんか矛盾してない？！

ホシイ 現実には多くの矛盾をはらんでいるものです。

カガリ いやいやいや。ユウマ君も、この子のが好きなら、ちゃんと自分が好きなものを理解しても

らうべきなんじゃないの。

エリ 先生。ユウマは別にその子のこと好きじゃないですよ。

カガリ は？

ユウマ はい。俺カノジョ欲しいだけなんです。

カガリ 最低発言！

ユウマ だって、地球では恋人がいないと一人前として認められないって。そうですよね、ホシイ先生。

ホシイ はい。恋人や配偶者がいない人は「人間的に欠陥があるのでは」と疑われます。社会的信用を得

るため、そういった相手は早めに確保しましょう。

カガリ 確保って……。

ホシイ 頑張りましょう。

三人 はい！

カガリ えええ……。

コ(マ) 「ねえ、おなかすかない？」

ユウマ 「すいてない」

ホシイ ストップ！ 君の腹具合など、彼女は全く興味ありません。

三人 ええ？

ホシイ 彼女は、自分がおなかすいているので、ただそれに共感して欲しいだけです。たとえ空腹でな

くとも、ここは「うん、おなかすいた」と共感します。

エリ 質問が質問の意味をなしていない。

コ(マ) 「ねえ、おなかすかない？」

ユウマ (ホシイ先生に促されて) 「うん、おなかすいた」

コ(マ) 「ちよつとマック寄っていい」

コロス(マッククルー)が登場。

コ(ク) 「ご注文お決まりでしたらどうぞー」

コ(マ) 「私シエイク」

ユウマ 「僕はポテトで」

コ(ク) 「お会計ご一緒でよろしいですか？」

ユウマ 「別々で」

コ(マ) 「え、セコ」

ホシイ ストップ！ デートでの会計は男性が払います。

三人 えー！

カガリ 絶対じゃないけど、そういうケースは多いですね。

ミチ 为什么呢？

ホシイ 理由は謎です。

三人 えー！

カガリ 経済的余裕をアピールするためとかいう人もいますけど……。

ユウマ 高校生に経済的余裕とか言われても。

カガリ 気にしなくていいと思うよ。対等な立場なんだし、別会計で。

ミチ でも、彼女「セコイ」って言ってたよね？

エリ (コロス(マドンナ)の表情を見て) ほら見て、あの顔。明らかにユウマの評価下がってるよ！

ミチ どうするユウマ。

ユウマ 「ご一緒でよろしいです」！ (払う)

コ(マ) (驚いた様子で) 「えー、そんな、悪いよー」

エリ 明らかに払ってもらおうことを期待していたくせに、なんだこの反応は。

ホシイ これが地球人の女子力というやつです。

ユウマ (ホシイ先生に促されて)「ううん、気にしないで」

コ(マ) 「本当？ ありがとうユウマ君！」

ホシイ 内心当然と思っけていても、大げさに驚き感謝を伝える。これが女子のたしなみです。二人もよく覚えておきましょう。

ミ・エ はーい。

コロス(マドンナ、マッククルー) はいつのまにか退場

カガリ こういうの、よくないと思うんですけど。

ホシイ なにがですか？

カガリ 男女平等に反してますよね。

ホシイ いいんですよ。道徳ではなく、地球での常識や習慣を身に着けるレッスンですから。道徳的に正しいことが、必ずしも社会常識的に正しいとは限らないでしょう。

カガリ でも……。

ホシイ そのことは先生もよくご存じじゃないですか。

カガリ え？

【4-3 保健室・レッスン③エリのカラオケ】

エリ あ、次、私！ 今度バレー部でカラオケに行くのでその練習がしたいです。

ホシイ バレー部は上下関係が厳しいことで有名ですからね。

ミチ ジョーゲカンケー？

カガリ 後輩よりも先輩が偉いっていう考え方だよ。

コロス(神様)、コロス(貴族)、コロス(奴隷) 登場。

エリ 三年生が神様で、二年生が貴族で、一年生は奴隷なの。

カガリ それは言い過ぎじゃ。

エリ バレー部ではみんなそう言ってますよ。

ホシイ 上下関係は地球で生活していくうえで、とても重要です。

ミチ そうなんですか？

ホシイ ええ。皆さんがいずれ地球で就職するとき、避けては通れないのが上下関係です。

三人 ほお……！

ホシイ ね、カガリ先生。

カガリ え、あ、ああ。そうですね。

カラオケボックスのソファ、メニュー等をセッティングする。

ホシイ では、さっそくカラオケボックスの個室に入ったところから。

エリ、一番奥の席に座る。

ホシイ ハイだめー！

エリ えー！

ユウマ なにがダメなんですか。

ホシイ 席の順番は、身分で決まっています。

三人 えー！

ミチ うそー！

カガリ 「席次」ですね。大人の社会ではありませんけど、高校生ならそこまで気にしなくても。

エリ いえ、いずれ社会で必要になるなら今のうちに習得します。

ホシイ 素晴らしい心がけです。原則は入り口から一番遠い席、カラオケの場合はモニターが一番見えやすい席に神様、次に貴族、奴隷は入り口や注文用のインターホンに一番近い席に陣取ります。

それぞれ順番に座る。

ホシイ 奴隷は席に着いたらまず……

カガリ あの、ホシイ先生。

ホシイ はい？

カガリ その、奴隷っていうのはさすがに……。

ホシイ いいじゃないですか、立場がわかりやすくて。

カガリ はあ。

ホシイ では、奴隷はまず注文を確認します。

エリ 「何頼む？」(メニューを隣のクロス(奴隷)に渡す)

ホシイ ストップ！ メニューも、神様が先です。

ユウマ 近くから回したほうが早いのに。

ホシイ メニューを渡す、料理を出す、意見を聞く、どんな些細なことも神様からが鉄則です。これは「あなたを最も敬っています」という意思表示です。順番を間違えれば「この一年は私をないがしろにしている」と目をつけられ、神から陰湿な天罰を受けます。

エリ そんな些細なこと？！

ホシイ 些細なことで「この私をぞんざいにするとは何事だ」「おのれ崇つてやる！」となるのが神様の特徴です。

カガリ そんな日本の土地神様みたいな……。

エリ 「先輩、なにを頼みましょうか？」(クロス(神様)にメニューを渡す)

ホシイ ちなみに相手の好みを事前に把握し、「先輩はメロンソーダでよかったですか？」などと先回りできれば「お、この奴隷なかなか気が利くな」といつて神のご加護を受けられます。

ユウマ そこまでするんですか？

ホシイ まあ、これはあくまで、カガリ先生のような上級者のテクニクです。

カガリ え！ 私ですか？

ホシイ ほら、この間の飲み会。校長や教頭の好きなお酒を全部把握してて。あれは本当に素晴らしかったです。

カガリ あれはたまたまで……。

ホシイ またまたご謙遜を。

エリ すごい。

ユウマ さすが。

ミチ 地球人の鑑。

カガリ いや……。 (うれしくない)

ホシイ では次に、誰かが歌っている間の行動を練習しておきましょう。

ミチ 聴いてるだけじゃダメなんですか？

ホシイ これは相槌と同じで、「あなたの歌を聴いています」というアピールです。リズムに合わせて手拍子やタンバリンなどで盛り上げます。

コロス(貴族)がアップテンポな曲を歌い、みんなそれに合わせて鳴り物を鳴らして盛り上げる。

ホシイ 素晴らしい。では次、バラード曲の場合です。

コロス(神様)がバラード系の曲を歌う。みんなさつきと同じように盛り上げようとする。

ホシイ ちなみに、バラードでは鳴り物禁止です。

三人
えー！

エリ
丸腰で一体どう戦えと！

ホシイ
カガリ先生、お手を。

カガリ
ええ？(困ったな……という顔をしつつ、ゆっくりと体を横に揺らし、時折目をつむったりしながら、聞き入っている感を出す)

一同
おおおお……！(完璧だ)

みんなカガリ先生の真似をして静かに体を揺らし、聞き入っている感を出す。

コ(奴)
(エリに)「ちよっとトイレ行ってくるね」(退場)

エリ
「いってらっしゃい」

ミチ
あれ、奴隷が一人、トイレに行っちゃいましたよ。

ホシイ
あれは悪い例です。誰かが歌っているとき、トイレに立つのはマナー違反です。

コ(神)
「ねえ、ちよっと。あの子なんなの」

ホシイ
ほら、始まりました。

コ(神)
「このタイミングで席立つとか、超失礼じゃない？」

コ(貴)
「ほんとほんと」

ホシイ
神の怒りが発動しています。

ミチ
うわコワ。

コ(神)
「てか、料理の注文も全部エリにさせて、さっきからあの子なんもしてないし」

コ(貴)
「確かに」

エリ
こういう時はどうしたらいいんですか？

ホシイ
触らぬ神に祟りなし。一歩下がって傍観します。

エリ
なるほど。(一歩下がって傍観する)

コ(神)
「あの子、一年のくせに横柄なんだよね、態度が」

コ(貴) 「あゝ、わかります」

コ(神) 「ほら、こないだの朝練の時も…… (悪口)」

コ(貴) 「確かに。そういえばあの子って…… (悪口)」

ミチ トイレに立っただけなのに、関係ないことまで悪口言われ始めています。

ホシイ これが神の祟りです。

ユウマ なんと恐ろしい……。

コ(神) 「ねえ、エリもそう思うでしょ」

エリ ひい！ 一歩下がっていたのに話を振られてしまいました！

ホシイ 同意、共感！

エリ 「そうですね、そう思います」

コ(神) 「だよね！」

コ(貴) 「エリもむかつくよね」

エリ 「はい、むかつきますね」

コ(貴) 「やつぱり」

ホシイ 素晴らしい。

カガリ ちよ、ちよ、ちよ！

ホシイ どうしました、カガリ先生？

カガリ 素晴らしい、じゃないですよ！ ダメですよ！ 本人のいないところで悪口を言うとか。

ミチ 本人がいればいいんですか？

カガリ そういうことじゃないよ。悪口自体がよくないの。

ホシイ やだなあ、カガリ先生。地球人がこういう場面で神様にたてつきますか？ ありえないでしょう。

カガリ いやいやいや。教育者として、これはダメでしょう。(生徒たちに) 悪口は言葉の暴力です。見て見ぬふりをしたり、同意するのは、自分が暴力をふるっているのと同じだからね。

ホシイ 悪口でヒートアップしてる相手ですよ？ たてつけばどうなるか、目に見えてるじゃありません

んか。

ユウマ どうなるんですか？

ホシイ やってみてください。

コ(神) 「ねえ、エリもそう思うでしょ」

エリ 「いえ、私はそうは思いません」

コ(神) 「は？ なんで？」

コ(貴) 「エリもむかつくでしょ」

エリ 「別にむかつきません。人がいないところで、そういう悪口をいうのはよくないと思います」

コ(神) 「は？ なに急に。意味わかんないんだけど」

コ(貴) 「え？ うちにケンカ売ってるの？」

コ(神) 「マジ生意気なんですけど」

コ(貴) 「ほんとそれですよ」

エリ 先輩たちめっちゃ怒ってるんですけど！

ユウマ 顔コッワ！

ホシイ このままだとエリさんはもう部活にいられなくなります。

エリ ひいー！

ユウマ 神の祟りやばい。

ミチ 怒りを鎮める方法はないんですか？

ホシイ 「なんちゃって」といって、本当は相手に賛同していることを全力で伝えてください。

エリ 「なんちゃって〜」

コ(神) 「え？」

エリ 「ほんとマジむかっていますよ、決まってるじゃないですか」

コ(貴) 「なんだあ」

コ(神) 「急に反抗してくるから、ケンカ売ってるのかと思ったじゃん」

エリ 「そんなことあるわけないじゃないですか」

コ(神貴) 「だよね」

三人 おおお……。 (胸をなでおろす)

ホシイ 「なんちやって」や「とか言ってみたりして」は、相手の機嫌を損ねてしまったときに、軌道修正できる大変便利なフリーズです

エリ なるほど。

ミチ 便利。

カガリ いい加減にしてください。そうやって、人の悪意や暴力を見て見ぬふりをするなんて、間違ってますよ。

ホシイ 間違っている？

カガリ そうです。ユウマ君だって、自分が好きなものを、否定する必要なんてない。好きなものは好きって堂々と言えればいいし、出したくもないお金出さなくていい。そんなことが当たり前の中のはうが間違ってるんだよ。空気読んで、うわべだけ取り繕ってなんになるの。間違ってることには間違ってるって、きちんと抵抗して、立ち向かっていかなきゃ。

間

カガリ なんですか？

ホシイ いえ、カガリ先生がそういうお考えだとは思ってもみなかったもので、なんとというか意外で。

カガリ どういうことですか？

ホシイ 私ずっと、カガリ先生こそ、模範的で、理想的な地球人だと思っていたので。

カガリ はい？

ホシイ 私のレッスンは、ほとんどがカガリ先生の言動をモデルにしていたつもりだったんですが……

カガリ は？ 私を？

ホシイ はい。カガリ先生は常に周りの空気を読んで、誰よりも上手に立ち回っていらっしゃるので。なので、正直ちょっと驚いています。

カガリ なに、言ってるんですか……。

動揺するカガリ先生。コロス(神様)、コロス(貴族)は、突然カガリ先生と同僚の先生に変わる。

コ(神) 「あの人、ほんと空気読めない。まじで使えないんだけど」

コ(貴) 「またですか？ いい加減迷惑ですよね」

コ(神) 「それよ。はつきり言ってるあれ、教師向いてないんじゃないの」

コ(貴) 「確かに。カガリ先生もそう思いますよね」

コ(神) 「ていうか聞いた？ あの人、アイドル声優の追っかけやってるらしいよ」

コ(貴) 「え〜きも〜い！ いい年して恥ずかしくないんですかね」

コ(神) 「そんなだからあの年で結婚もできないんじゃない？」

コ(貴) 「言ってる。あんな風にはなりたくないですね」

コ(神) 「ねえ、カガリ先生」

コ(貴) 「そうでしょう、カガリ先生」

カガリ先生、茫然とする。

ホシイ カガリ先生？

カガリ 気分が悪いので、これで、失礼します。

ホシイ 大丈夫ですか？

カガリ 大丈夫です。(出ていこうとする)

ホシイ 先生。

カガリ はい？

ホシイ これもっていつてもらったいいので。(菓を渡す)

カガリ (薬を受け取り) ……どうも。

カガリ先生退場。

暗転。

【5 帰り道・元気になったアムロ】

夜の帰り道。うちひしがれながら、歩いているカガリ先生。正面からアムロ登場。

アムロ あ！ カガリ先生！

カガリ アムロさん。

アムロ 先生とまた会えるなんてラッキーです。

カガリ (嬉しそうなアムロの様子を見て) あれ、今日はずいぶん嬉しそうですね。

アムロ なんか最近、職場でちゃんとできるようになったんです。

カガリ ちゃんとして？

アムロ 先輩とか、同期とかと、普通に話できるようになってきたんです。今日もこの後、先輩と飲みに行く約束してて。

カガリ そうなんだ！

アムロ はい！

カガリ こんなに楽しそうなアムロさん見てるとこっちまで嬉しくなっちゃうな。なにか心境の変化があったの？

アムロ じつは……お手本を見つけて。

カガリ お手本？

アムロ はい。ネットで参考になる動画を見つけたんです。

カガリ どんな動画？

アムロ 「宇宙人が地球人になる方法」っていう動画チャンネルなんですけど。

カガリ え？

アムロ 普通のひとはこうやって空気読んでるんだっていうのがすごくわかりやすく解説されてるんです。

カガリ そう、なんだ。

アムロ 本当に勉強になるんですよ。こういうときはこう言ったらいいんだ、って。動画で紹介されていた方法を職場で試したら、本当にうまくいくんですよ。主任からも「最近受け答えもしっかりして、成長したな」って言ってもらえて。

カガリ ……。

アムロ 先生？

カガリ え？

アムロ どうかしました？

カガリ え、あ、いや。

アムロ それで最近ずっとその動画見てるんですよ。

カガリ アムロさん。アムロさんはそれでいいと思ってるの？

アムロ え？ どういうことですか？

カガリ そんな、動画で見て覚えたような、型にはまったふるまい方を身に着けるのって、なんか違うんじゃないかな。

アムロ え？

カガリ そんなことよりも、もっと自分らしい方法を考えたほうがいいんじゃないかな。

アムロ どういうことですか？

カガリ アムロさんには、アムロさんにしかないいいところがたくさんあるんだから、それを大切にしたいほうがいいと思う。そんな、本音を隠して、心にもないことをうわべだけで取り繕うようなこと、先生はアムロさんにしてほしくないな。

間

アムロ　なんでそんなこというんですか？

カガリ　え？

アムロ　私はいま、やっと普通になれる方法を見つけて、やっと周りに馴染めるようになってきたのに。

カガリ　先生は、アムロさんの個性を大切にしてほしいだけで……。

アムロ　そんなのどうでもいいんです。

カガリ　アムロさん？

アムロ　私らしくとか、私の個性とか、そんなの誰にも求められていないんです。ほかの人と同じように、

普通にできなきゃだめなんです。

カガリ　普通って何？　みんなと同じが普通？　空気読んで、自分の気持ち押し殺して、周囲に合わせて

て？　そんな（まるで自分のような）しょうもない生き方……

アムロ　先生は普通にみんなと同じようにできるからそんなこと言うんです。私はそんな風にできない

んです。いつも人と違って浮いてウザがられて、本当に自分が嫌いなんです。

カガリ　そんなこと言わないで。アムロさんの良さを分かってくれるひとは絶対にいるんだよ。今の職場

に無理して居るくらいなら、もっと自分にあう職場を探したって……。

アムロ　私、就職活動で何十社も受けて、受かったのこの会社だけなんです。空気読めない、要領悪い、

扱いづらい。私みたいなの、どこの会社も雇ってくれないんです。母さんからも、「今の会社に

拾ってもらえてよかったね」「しっかりがんばらないとね」って言われて。がんばらないといけ

ないんです本当に。ここ辞めたら、どこも行くところなんてないんです。違う仕事探せなんてそんな

な簡単に言わないでください。普通に、みんなと同じようにできる先生とは違うんです。

カガリ　アムロさん！

アムロ、走って退場。

【6 この星はブルーだ】

アムロを追いかけようとして、立ち止まるカガリ先生。周囲を見回せば、レッスンでやったのと同じ「模範的な地球人のふるまい」をする人々であふれている。

カガリ (人々の声をかき消すように) やめろ！ こんな、誰もかれも、心にもないことばかり！ うわべだけ取り繕って！

ホシイ やだなあ。これ、ぜんぶカガリ先生をモデルにしているのに。

アムロ 先生のやり方を真似したら、本当にうまくいくんですよ。

ミチ さすが地球人の鑑。

カガリ やめろやめろやめろ。私をお手本になんかするな。私の真似なんか……。こんなうわべだけの人間！

ホシイ 地球人的謙遜も素晴らしい。

カガリ ちがうちがうちがう！

ホシイ 重く考えなくていいんですよ。みんなと同じになれるなら、そうしたほうが楽でしょう。

カガリ 楽だけど、全然楽しやない。

アムロ らしさと個性とか誰も求めてない。何の役にも立たない。

ミチ 生きるためには死んでも隠し通さないと。

カガリ 生きるために、自分殺して、

ホシイ 私たちはただ、平穩に生きていただけなんです。

ミチ 先生はどうして平氣でいられるんですか？ この空気を吸ってて。

カガリ 吸い込んでないから平氣な顔していられる。私はこの空気を、吸い込まずに、ただひたすら読み続けている。

ミチ これだけ重力を受けても立っていられるんですから、やっぱり先生はすごいです。
カガリ 私だって、本当はしやがみ込んで、この場にうづくまってしまいたい。
アムロ 先生は、普通に、みんなと同じようにできてるじゃないですか。
カガリ 私だって……

その場に膝をつき、うづくまるカガリ先生。

アムロ 先生、深呼吸しましょう。

カガリ え？

アムロ 深呼吸。

カガリ先生とアムロ、深呼吸する。カガリ先生は落ち着きを取り戻し、二人は空を見上げる。

カガリ 真っ暗……。

ミチ この豊かな星に生まれたあなたたちは恵まれているんですよ。

カガリ ……恵まれてる？

ホシイ 羨ましいです。

カガリ ……羨ましい？ 目の前はこんなにも真っ暗で、この星は、こんなにも……（憂鬱なブルーなのに）。

見上げた空は、やはり暗闇だ。アムロは小さなプラネタリウムをカガリ先生に手渡す。プラネタリウムは静かに輝き始める。カガリ先生は、その弱々しい、美しい光を見つめている。どこから、SOSのモールス信号。繰り返し、繰り返し。

幕